



秋葉
靈驗
繪
本
全
石
譜

八
卷
之
終
式
文
書

遠 13
980
4



たつよのまゝいふふん何しす吾は安ん月田乃山葉子
てふたのこれかまよめ乃たもむきに法經のあし
多れを病まきをいつるしは足けししくかとの葉
を信くしむも子母のをむなしく志しれくそよをせ
まをむんしむをいせ神のあやうさうつらむまら山
葉子の愧いあめ家をとんたのくつりあう横木
よのそ頼もといあまぬおのまらあやうまよの
ゆをねまきすいひの筆まらるるははれれとそ
いそりなを乃神てよの山安あよ乃せえんりも
ふせんはあなをてかうえまはぬたと言はぬあを乃

はしけいひにかははるるいもさなるひのつこ
なうたはけらうのり吾な乃有さあうあ
よん四乃乃まらうあふたえたはまうん
よふなをたおあふたむあふす神あ
まらあおの勝りたをいせすいひ何あ路りて
げああ乃よたまきをんを福あたはまはた
はし能れあおたぬあはまらまをすああ
よたはま十と勢 亦月庵の
とらふせう乃 安んし照樓

睦月





繪本金石譚前編總目錄

一回	迫義靈狐救恩人患難 避妬害小柴潛藤川邑
二回	歟七過取違清包赤子 伊織不圖拮路頭捨子
三回	猛丸暗夜池辺刺巨奥 挾衣子初懸想香之助
四回	倭臣亦謀使主不正陷 信魂晴主欲亡香之助
五回	帷子辻香之助討岩瀨 道縲紐受賀嶋走至家



六回	射蛇神英列得石与鉄 畠山道誓君前辱英列
七回	責過失英列追播广助 英列託清包制作刀劍
八回	喫一碗酒姪念破五戒 意香之助挾衣子亦難
九回	懲二兇香之助遭挾衣 療異人二王学得奇術
十回	遭挾衣子再二兇之難 隱雌劍清包歎隱碧哥

前編五冊都十回目錄畢





賊首
二王左衛門



槻本遠江之助英列

槻本家之忠臣
伊織 賀嶋



狭衣さゐか母かほ
小柴こしば尼に

阿部屋あべや桶内かづりが女をんな

狭衣さゐ子こ



伊織いおりか養子やしこ
吾賀わが嶋じま香か兵衛べゑ

賊僧ぞくそう姓せい念ねん



つねりといふ
 槻本英列が
 伯叔祐明齋



つねりといふ
 嶋原の
 唐絹
 権君

つねりといふ
 槻本家の嫡男
 播磨之助英信

自然号のくかりて緒人も概本英列とぞ称小多きし英列も君の御電情と
 深く感佩し此君の御為小一命をも献つるを益心致責く忠勤を属と多き或
 時管中の侍候く御書院の飾を拜見す小御香炉の音磁の浮牡丹やうらひ
 したま言語小絶く英列も古岳を好む癖あまを母度賞讃くあから入るふ
 を將軍遥小御覽し扱き英列香炉小抱心せりと思召吏の序小件の香炉を下し
 賜る英列の夢々と許悦ひく厚く君恩を謝し香炉を頂戴して家宝とす此
 一條を以て君電他小異ある推て知り時小此英列が領下小別後投村小窮作
 一人の娘小柴とくを領主の家門概本祐明齋
 が行小水仕奉公小出り其身小獨身や縁の田圃を耕し露の命をばあ死々小
 も續死薄命重あり何れも未進若干積りてを庄官の責をる豊頼あき

今ハ水牢の妙蓋をたよりいの詞ふぞえ来頑愚魯鈍の窮作大ハ悲れ
 娘が許す是も幾度とあり無心を云遺し増て況や自余の人ハ負同
 負ぬ方もあられむ今ハ維たたりて若干の未進を償ふ千々心成困り
 々々此窮作が家の後小孤の穴ありて祖父の代より祠を建敬し祀りて朝夕
 食物を供する更一日も怠りて當時の窮作が代よりて次第小貧困小迫り
 柴く煙も絶くあれも先祖の傳にれむと縁ある食物を別ちと猶
 高きと供へる小一日創のくあつひの 音小飯を盛て祠ひたひ 獨言小いひるや
 先祖の言傳あしを我命の有人限八日の供物忘るおぼ 思ふれども妻
 年信心する我家の斯くハ窮迫する何とも思ひて日々の供物成食うる
 世小心る死扱ふくめと鑑たつ家小飯まで夕食一終り未進を償ふた更を耳

起おきたて案あん上じやう寐みて思おもひ心こころ屈くし氣き疲つかまき首くびを低ひま居ゐる処ところ何なに所ところよりとも
 く異いの老らう翁う出来いでて窮きゆう作さくが前まへの座ざにぬ窮きゆう作さくやと首くび成なるけ此人このひとをみる
 小こ由ゆへ知し己おのれ不な有ありなむを赤あか駑またも窮きゆう翁う何なに国くにの人ひとや何なにの為ため小こ来き里り玉ぎよへると
 向むか翁うが白はくじは是こゝ脚あし身みの組くみ先まへより深ふかく思おもひ思おもひを蒙かぶる老らう狐こなり我われ久くく脚あし身みの
 貧ひん窮きゆうをみる小こ不な忍しのむ救すくむ思おもひ思おもひ切きれぬも原はら来き貧ひん富ふ天てん數すうゆゝ人ひと力りきのなる
 所ところあらず況いは歎なげ類るい小こ於おかしれと先まへ小こ曰いはせ一言いちごん骨こつ小こ徹てつまま情じやう愧けい小こ不な堪た向むか
 後のちハ決けつし我われ祠ほつ食品じふひんを供くわうじふ己おのれハ他た小こ食じきを求もとむ更さら足あるさくく脚あし身み
 を露つゆ怨うらみあらずす吹ふくく心こころ長なが閑かん小こ世よ成な送しやう王わう時じつつも再また祭まつり祀まつを受う傳たづん
 是こゝハ聊しやうあらず脚あし身み小こ進しんずせ人ひと是こゝを以もつて未ま進しんを償たがひ難がたを免まぬかく袖そで
 の裡うちより一ひと包ふくの金かねを出だしし窮きゆう作さくが前まへ小こ置おまま上う窮きゆう作さく大だい小こ驚おど駑ま前まへの

言いハ二ふた時ときの戯あそめ何なにぞぞる患うれを受うるいれぬ唯ただ及および納なりと袖そでをひひ止とめんと
 してし窮きゆう翁う袖そでを拂はらす外ほかの方かたへ出で其その身みハ拂はら放はなして尻しつ居ゐ倒たふれと思おもひむ愕おど然ぜんと
 しく眼めさま唯ただ一ひと場ばの夢ゆめむむりり窮きゆう作さく忙むしやん然ぜんと扱とハ未ま進しんを償たがるは更さら成なのき
 思おも煩わづらハ自みづからかる夢ゆめをみるもみるとと歎なげ息いきし何なに心こころなく座ざ邊へをみる小こ正ただしく夢ゆめ
 の裡うち小こ老らう狐こがさ下くだり金かね包ふくももあり是こゝハ何なにぞと取と上ありし封ふうを開たらぬは公こう案あん花け
 色いろ乃すなはち圓えん金きん十じゆ兩りやうあり窮きゆう作さく再また正ただ夢ゆめゆゆ有あるる畜ちゆう類るいと魚いさなく情じやう
 の有ある者ものを身みの念ねんしし小こ死し更さらいひ一ひと面めんあらず斯す許こゝ尊そんた志し無な下くだりし
 命いのちややもも暫しば時とき借か受う後ご日ひ如何いかももて反へん納なせんと包ふくもも小こ押お戴だい死し頓とん
 て庄しやう官くわんが許こゝゆゆ右みぎの金かねをとり出だし未ま進しんの代しろ納なめめととりて庄しやう官くわんを九く作さく也なり
 死し足あ下くだの困こ窮きゆうゆゆも斯す許こゝ大だい金かねの鋪ふ達たつせし受う納なめ窮きゆう作さくを既すでに

のちとてひかひかしく
 て後燈火搔互件の金子を改め見ると悉く領主の刻印ありハ与九作眉を敲め
 是殿の御用金ゆく猥小用ひまはるる金ある小如何して窮作如た賤た者の手
 小有やと心十分の疑を生じ忙しく古禱を乞ふ一僕小提燈ももせ代官工藤勇
 太丈が郎小弛りる件の金子成呈し云々の趣を演りれば工藤も深く訝り庄
 官を同伴しる。用金方保津田佐渡之進が絆へ弛行し五二十成ぞ辨へる。佐渡之進
 委細受取金子成受取て兩人を飯しる翌日登城し英列小斯と言上りたりて英
 列稍沈吟し我昨馬手回し十圓金成置し小何時の程小失故深く近習
 等成疑ひしが今此金子成包し紙正しく見知ある我封印の破残さるハ紛ふ
 く由ありぬ紛失の金ありさざれば賊の忍入し跡もなき思ひ廻りせむいと不
 審多かり一應其者小出所を同明よとせし多小より佐渡之進畏むく下城し

即時小工藤の方へ吏の趣を告りたり。工藤領掌して頃小下吏小余しく窮
 作成り捕白砂小引居る金子の出所を証明せし小窮作ハ大ハ小恐甚一点も隠
 とを更能く夢中小老狐の憑る條の吏を慄わら白状せしが工藤曾て絨
 と茶の眼を圓くしと伺と睨し汝御用金成盗と取あがし小児を欺くと虚烈と吐
 糸言結小絶せし曲者なり。申も辛た目成見せし人む実事成すよと自まつ。
 下吏小指揮し強た呵責成して跨向させると色元未也躬作先小陳せし外
 小覚ありしが何と言解人せむもや。只免しとせしは純の外他吏成む。工藤殆ど
 とてあり。其只跨向成る老獄中ゆで被帯を置きた然る小英列其夜の二人
 机小倚り書成見夜の更る成もあて有る小何国よりともなく年齢八九旬
 ととちり老翁一人入来り。英列が座前小蹲り。潜然と泪を流し。辨紹有る



扣扉入。英列将也。汝何国の者。何の爲。来まると。答む。其時。羽面を上。
 己ハ原人間あす。原ハ秋葉権現の神使。老狐也。故有て。秋葉山ヲ追拂ハ。ま
 窮作が先祖の代り。辱た思成。荷ひまじり。所以度未進の代。迫り云く。のより
 獨言ふ。サヤ言胸。二徴。一年久し。死思惠。然受あかぶ。る。危急を救ハ。さる。心
 あ。え。業し。かり。侍。ま。でも。歎。類。の。と。少。く。如何。も。ま。さ。る。支。餘。を。と。神。通。を。と。ま。り
 御。手。回。小。ま。む。ひ。ひ。御。金。を。替。の。間。と。拜。借。し。て。渠。と。ま。未。進。を。償。つ。せ。ひ。ひ。
 却。と。其。全。子。の。故。小。り。思。人。窮。作。御。不。審。を。蒙。り。水。火。の。呵。責。小。困。は。是。己
 一時の過より。思小報人。く。却て罪を。さ。る。え。支。今。更。千。悔。を。し。其。甲。斐
 可憐殿の御仁。意成。を。窮。作。が。科。を。思。免。あ。る。生。之。世。々。鳴。息。を。忘
 置。小。平。伏。泪。を。流。し。て。願。を。英。列。子。細。を。さ。る。感。歎。小。非。

類。と。由。尚。義。小。迫。思。小。報。人。間。也。愧。系。絶。り。我。初。彼。貧。民。の。白。状。の。様。を
 傳。へ。不。審。を。し。し。奇。怪。の。吏。小。思。ひ。今。も。疑。念。暗。り。心。安。く。れ。彼。者。り
 罪。を。免。り。得。させ。を。許。客。あ。ら。わ。で。翁。ハ。三。拜。九。拜。し。厚。く。謝。し。後。園。の。方。退。く
 色。呼。と。吠。つ。は。や。ん。え。を。成。小。り。英。列。奇。異。の。思。を。か。心。中。小。思。々。る。ハ。さ。か
 王。正。直。の。貧。民。を。虐。げ。縛。達。成。が。未。進。成。其。債。を。こ。ろ。か。あ。珍。吏。由。出。き。る
 り。母。さ。う。あ。ら。地。頭。代。官。の。科。も。あ。る。守。我。政。事。小。心。成。用。の。事。の。益。あ。る。さ。る
 小。と。ま。り。し。嗟。歎。し。翌。早。朝。代。官。庄。官。并。小。窮。作。を。召。出。し。判。書。成。統。治
 せ。く。窮。作。が。服。科。を。免。し。尚。一。身。成。安。ん。と。る。程。の。茶。地。あ。る。れ。を。窮。作。と
 土。小。頭。を。埋。難。有。泪。と。俱。小。辱。く。大。恩。を。謝。し。勇。之。悦。て。己。が。家。へ。飯。ア。り。

其後英列村の水帳を改め正路を守り負民ホが未進成行し悉く帳面を
消し去るに諸民首成り其仁徳成稱し

小柴避難借藤川村條

天の降と所必む正地を生じ必と靈ありと虫尚人民を害し暴風悪雷
毒虫主母草ある事能つむ概本英列がのて賢明の主ありと虫家の伯
叔小概本祐明齊と人あり加茂郡の内一萬石を領し家老格中と兼て
本家の後見より其為人面小忠実をなれし内小倭奸邪悪く能を忌
功を妬む小人あれし領主英列が將軍家の御覽芽出と緒人の賞譽さる
を胸悪く思ひ且己叔父の身とて甥の目前小膝を屈する成耻し天晴練と
廻り英列を絶害し己家國を押領せんとかり一更日久くと車英列

仁智の主より家士より順ひ懐た且長臣妻賀島伊織一統ある者智勇群小

秀忠直無二の賢士ふ内外の政勢を輔し祐明が奸謀絶と小隙を空工

胸を撫ふ時の熱も成待自然の時の為ゆと京都四職の中一人魚

山金吾入道々誓小多の賄賂を贈り烟志を通概本の藩中の士ゆと

己小指不者ハ格別の恩恵をア各々其成引弑し時己が邪謀小引入ると

知者更小りり々々茲小又彼猿投村の窮作が娘小柴ハ此祐明が郎の水仕奉

公り々々小生質其發明令利ゆ々容貌又醜くがれむ汝弟小奉用ひらき

逐小奥向の侍女も取られぬ然る小祐明或夜酒狂小棄しと

小柴成兩室小列入圍情成通一物其よりハ妻室の用成忍ひ折く圍房小親付

々々小柴も心小深むと主命の黙止かて我ありあ守列膝も逐し

史云 継振一々るや。祐明大少悦ハ。我既五旬小近。いも未と世嗣あり小幼く。子公得ん
 妻の悦。さよとて己か。秘蔵の短刀備前助次の九寸五寸。小朱牡丹塗の鞘。けて小柴が
 身の禍難を避る守刀ゆ。帯をせ。然小祐明。妻真鳥と。とるハ夫の性質小
 等。く飽ま。嬖妬扁執の毒婦あり。小柴。懐妊。由成泄。娼。妬。燃。る。如
 く大。小怒。暗。小切害。させんと巧。とる。成。小柴。ま。人傳。小ほ。怖。感。以。祐
 明。小告。と。夜中。小郎。を忍。び。出。夜。俱。小道。を急。又。小躬。作。が。方。逃。之。り
 云。く。の。一。物。結。る。小窮。作。も。深。く。怖。我。方。小。隱。一。置。人。尚。危。一。と。藤。川。の。宿
 小其身の妹。賤。と。とる。者。近。た。頃。夫。小。死。別。去。一。人。の。小。見。と。唯。二。人。住。る。有。む。幸。の。妻
 よ。と。其。方。小。柴。を。連。行。替。一。の。間。時。ひ。と。搦。憑。ひ。小。親。一。た。姪。の。一。を。け。れ。む。子
 細。く。肯。ハ。我。方。小。柴。を。止。り。と。ぬ。窮。作。ハ。心。を。安。ん。一。攘。技。村。に。之。ま。る。

斯く賤。小柴。を。隠。貯。萬。心。成。付。く。痛。う。扱。ひ。多。分。原。来。家。を。一。れ。上。杖。柱。と
 頼。一。丈。小。別。去。女。の。手。一。小。鳥。嬖。作。と。今。年。五。才。小。ある。稚。子。を。抱。一。登。八。人。小。雇。ハ
 多。く。洗。濯。の。業。を。あ。一。夜。八。子。成。賺。一。か。う。草。を。糸。繰。あ。り。て。僅。の。錢。を。ほ
 細。た。烟。小。ふ。豆。目。ひ。多。に。小。柴。が。成。増。れ。む。弥。貧。苦。を。添。々。ぬ。其。色。目。然。も。足
 せ。と。信。々。一。と。て。か。り。多。小。柴。も。其。情。深。を。嬉。し。其。身。の。衣。服。揃
 筭。を。代。り。と。烟。の。技。一。親。窮。作。が。方。より。も。女。け。の。貢。を。と。り。て。心。苦。一。死。月
 日。成。送。り。々。何。一。う。春。暮。其。去。く。七。月。下。旬。小。俄。小。産。の。氣。付。一。く。賤。ハ。甲。斐
 く。一。抱。一。練。り。屬。一。て。力。成。付。な。く。一。兎。角。と。小。珠。の。外。恨。一。苦。一。と。衛。其
 夜。妻。の。刺。さ。る。小。健。ある。男子。を。産。落。一。り。賤。ハ。初。く。心。安。産。後。の。扱。ひ。残。る
 所。を。一。の。翌。日。人。成。と。て。窮。作。が。方。へ。斯。と。言。や。り。れ。む。大。少。悦。ハ。取。物。も。と。を

敢て賤く方未王母子が健あるを悦ば限らず。賤く高の取扱を謝し
 己も賤く方止宿一後の更にも後合あり。一日二日と送る。早赤子小乳をつく
 びた日中成り乳合し乳を合さず如何ある。更も小柴が乳双方も一滴も出
 ず。賤も窮作も惘惑ひ是病のまじやとて。医師小委ね如持を頼み種ふ手成
 書盡せし。露紆の露もな。子八日と小瘦衰。純小隣家小乳を乞ふ。露の余八保て
 ども未暮くくもんえがれ。三人も惘景斯くハ難義の中の難義あれ。人小遣りて
 三月てまをよと商議しれ。是とも女の艱育科を添われ。賞ふ人の有べり
 もあらず。且稚子が誕生の日庚申のおれ。口さかある。扁鵲の姥。嘆本賤女を姪
 の子ハ成長の後ハ賊小成り。庚申子よあんど言觸し。其外ハ隣村。くも濃
 ろ。ど彼小付。是に付暮く。取合人も有す。れ。此上ハ入られ。路頭小捨

死生を子の宿運小任せ。もと小柴はよくと泣出し。腹を無下小卑し。れ
 又君ハ槻木の御家門ゆく。権勢人小勝れ。あふ方の風ある。内君の妬。強た故りて
 け。日影小産き出。女の乳も。喝るの。く人。多。小艱育。更。小叶。道。の
 街小捨ら。宿世如何ある。報ひふく。び。抱き。泣。入。れ。む。賤。ハ。く。り。窮作
 由心の裡を推量。王。美世の中。小貧。小。心。若。し。物。ハ。あ。る。と。互。小。あ。が。れ。る。と
 ぐ。血。小。泣。争。ひ。六。の。被。成。深。々。何。時。も。云。て。も。及。ら。ぬ。更。り。あ。き。む
 窮作心成鬼。お。り。泣。伏。小。柴。成。練。小。諭。嬰。子。成。抱。取。立。上。る。成。小。柴。替。り
 と引止。被。祐。明。が。よ。一。助。次。の。冠。刀。取。出。し。若。他。人。小。据。ひ。上。る。人。と。あ。ら。ぬ。又。君
 小回。逢。使。小。成。成。り。是。成。添。く。捨。あ。し。臍。の。緒。と。俱。小。泪。あ。ら。ぬ。出。せ
 小窮作も胸塞。王。張。結。し。氣。も。と。め。ぬ。ま。い。我。と。再。ハ。心。成。腐。一。兩。品。を。借。取

心強くも出行しつげ。小柴も賤も轉まわび出い。今いま戎や此世このよの別わかれやと。思おもへて人の堂どう戎や轉まわ王わう。
忍しのび吾われ小こなく。郭かく公洞こうどうの血ち成なりや吐つゆるる。

鐵七過取遠清包見餘

且かつ鏡かがみ五ご三さん列りつ五油村ごあぶらむらの扁へん辺べん小住こぢうる刀や鍛た治ぢあり。原はらハ周防国しゅうぼうのくにの産うり。二王にわう三さん即すなは清綱きよつなか末裔まつゑあれむ。躬みづかも二王にわう五郎ごらう左ひだり三門さんもん清包きよたけと名な称なづぬ天あま性せい鍛た治ぢる。道ち小こ妙めうを得え。家いへの秘ひ決けつハハ之これ更さらあり。諸家しよかの蘊うん真しんとと呼よべ。古ふる今いま名な鍛た治ぢの燒や。双ふた金か味あじ白しろハハ鑢り目め小こ到いたる。道ち暗あん紀きせむ。こし更さらなく。古ふる刀や新あらた刀やの真ま偽いつはり戎や堅かた底そこと。ろろ了りやうハハ僅わずか小こ鞘さや三さん才さい戎や拔ひく。是こゝを辨わんんとと小こ符ふ節せつ戎や合あははす。千ち小こ一いつつも。縁えんととされ。家いへの秘ひ傳でんの上うへ諸家しよかの妙めう所しよをを交かへへ。かかつつ劍けん戟げきををちち鍛た治ぢ小この。鏡かがみとと近ちか世よふふるるととあありり。當とう代だい無な双ふたのの名な鍛た治ぢあり。されど此こゝ清包きよたけ強つよ直ちよく無な敵てき。

の廉れん士しああくく尊そん貴きの前のまへ小こ膝ひざをを屈まぐるるをを嫌きらひひ利り欲よくのの為ため小こ手て戎や下くだす。躬みづか心こゝろの進すすめ。時ときハハ昼ひる夜よる寝ね食くをを忘わすれれるる。屬おとと鍛た治ぢ心こゝろ不ふ進すすむ。王わう候こう貴人きじんの御ご需す有あり。兵へい曾ぞうくく命いのち小こ焦あせせせむ。茲こゝ小こ於お家いへ自みづか食く。塩しほをを當あ源げんをを喫く。窮きう迫ぱく小こ。ききもも更さら小こ患うれああるる色いろかか。其その妻つま戎や維い根ねとと呼よべ。是こゝもも一いつ國くに愛あい宕たうのの社しゃ勢せいが。娘むすめかからら婦めかけ人ひとああるる心こゝろ雄ゆうとと呼よべ。三さん十じゅう人にん敵てきとと旅たび力ちからああるるととちちりり。才さい膽たん畧りやくとと衆しゆ小こ勝かつ也や。夫おつと小こ事ことハハ才さい貞ちん烈りやくかかりり。小こ世よ小こ縁えん遊ゆう変へん戎や好このままととか。性せいああるる只ただ諸しよ渡わたり。使し者しや戎や以もて。數かず刀や劍けんのの制せい作さくをを乞こ需するる戎や殿どのハハ終しゆう小こ。周防しゅうぼう戎や遠とほ電でん。普あまのくく諸しよ列りつをを経へ歴れき。此こゝ五油村ごあぶらむら小こ足あし戎や止とどめ。且かつ夕ゆふのの烟かえり乃なり代しろ。小こ鈍どん薙は鎌かま菜な刀やのの。此こゝ難がた刀や戎やちち。是こゝをを驚おどかかすす心こゝろのの依よ小こ世よ戎や送おく王わうとと今いま。年とし清包きよたけ四よ二に才さい也や。妻つま女むすめたたくく。かかりりくく五ごのの。一いつ男おとこ子こをを産うむむ。鼓つづみ園のち戎や乃なり物もの。

子あれむ夫婦が悦び誓ひ物々刑山小美玉成得合浦小名珠を摺ひ
心地し末頼母くそおひひる然小平生心満かく往及隣邑乃農民鋤土
ある者のりさう又の厄年小出生し子且路頭へ捨他人小摺ひせし其
人より改め貫受云月がれも生長の後又母小崇るく有と之む廿六呪ひとやん
一旦何國へ捨也我摺ひ上改め足下へ進く廿八如何とらふあそ夫婦も古く
より人の言傳へる呪ひあれむ何心なり日意し然む今夜産神の前ある松
が根小風呂敷うり短刀成枕辺小置く子成捨んる足下直小摺ひ上くか
りうへと場所時刻も小念成推く約定しれむ鋤七ハ心得くくむ
己ク家希へ飯アんく斯く其日も暮るる折しも八月六日の夕月夜あれた折し
く清色ハ我子成懐中明神の林へ行松が根の破上小風呂敷うり短刀成枕

子成懐中より出しと置く約束のくく躬制作せし阿叫の梵字を彫
る白鞘の九寸五ア成枕辺小置く上る折しも入る初月小村雲掩ひく
アま影晦くかり物の善悪もりたぐるる所跡辺より人の足音きこえ
るれむ若鋤七が来斗るゆとさ足して林の中へ立隠き動止いふ小く窺入
小夜風や肌小毛さう久々今もく熟く味へ嬰女子壹成多く啼くと泣出
しね彼方より来きる人立傳り聴し人何々獨らうく子成抱え上懐小入
短刀と川子雲透小まかり力腰小くしてど立去る清色ハ圓小是を鋤七ハ
心得呪ハ更しとく近路より廻りて先へ飯を待くんと足成逸めく飯
アね益小又小柴ハ又窮作ハ赤子成抱え茲彼所をさなよ子成捨んとこれ
と兎角小障アめく捨る歩むとハかくこ油村すくまも明神の林へ

くろふ竹く前後ふ人有ざれい
在ふ捨んとまよふ足ふ河う引く

物あり取上るれは小さく風呂敷たう
扱は茲小捨よと神の告うあわてとて

其所小風呂の押廣げ子我懐よりゆの薄月の影ふとくく涙くく噫
昨世の中此見のくは薄命ある者あはと身一郡の王の胤あう人の妬の強た

故影の里小産うくあわ杖柱と頼む母親の帯の乳も出む乳母抱えんも
何せんもの時あうれぞせんをせむくは小脚をち捨るぞ可憐明神の脚加護あて
如何ある人も拾ひ上りま人とあはよまはれ健小生立ても景普正に足履もあう
と握敵の友らちゆも捨子よ親か子よと卑らうれ物あふ心も捨る



も世くも思ひ屈し其の足母をさ慕う足使ふの兒のまきたや浅積の身の負苦
やと狩狩あう園の路辺小老の繰言のほは親女子をいふ泣入る小後乃方
より人の来るけいひくを窮作大い小残た惑ひ忙しく見然風呂敷の上小置短
刀を枕え小横く松の茂ふ身を忍び息付結をぞ窺ひくる扱も彼鍬七も
清包か手を裾ひ上人と約定し己が家小飯屋々々小友ある者の行より酒振舞
人と言越々れで原來酒とりし声をゆぐ小涎を流すと好者ふく一息の辞退も

足由あうら小宿り小飯り其休サ例
あうまど熱味し六半頃よくも起出を妻女ハ
清包と約定の更成は居まて敷あて起

清包主の待統おひあ人の疾行なりと急がせど、
 鉄七衛門が覚し妻がひふ
 歩残れ酒氣は尚醒むる遠く明神の方へ
 地行ひ方へ約束せし所小
 公置木蔭の立隠る風情是必定清包ありと
 解用し扱も了時を来まり
 と獨言。おひあ立寄松が根の早泣出と
 水子の声手早し懐小抱たり短刀
 此も風名敷お押巻て帯ひき清包を呼んせし
 思心お思ひえし茲ふく
 言をうけねがひあは早くゆき子成渡さ
 何はたし一口の眞一陶の酒を
 用意しあつと駐の裡お楽まつ足成逸
 めくまきりる聴作は木蔭より此林を
 入る裏く駒を押しお册神の両如護小
 物扱ひ中咬まど人お諾ひとん
 一ハ子の行末も頼とありと社の方
 敷度伏拜し少し心お勇成生し藤川
 きて飯里たり是より前ふ二王清包
 八道通より家居お地飯を妻たがひふ
 三

の由物結るふたごもちや笑出産し
 一あ日由往がれど男勝りの女
 らいし甲斐くく美く買置し
 奥成者もの酒温ゆる心構し待
 ちて鉄七曾く飯里来む君我家へ
 やう居ると清包走里行し
 妻向小鉄七が妻ハ
 流石男が酒小酔酔く衝く
 今行ともえいん疾出一小
 赤飯らずとりふり。是ハ何
 新行時の延るしやと。主婦ハ
 心も心あすおのぬ妻す
 思ひを今も待所ハ衝初
 更の頃小鉄七子を懐ふし
 一未まり主婦ハ初て心を安ん
 扱も何故くハ際より中
 途中ゆく後が成る人
 為おんを乞ふ飲せし
 一と回小鉄七首成振香し
 殊小遅し見と見え拾ひ
 十時小一
 声二声の騒せが騒せ
 騒止るも快く寐られた世の
 誘小百日の寐子ハ
 一ハつれと生まるといふ
 五日と往がる小十町
 小余る路を往及る
 乳

飲も飲く熱味もさへ虫氣も胎毒もなほふとと己口出る俵酒を飲と
わりの追従口も夫婦八絨と申悦ハ時の延ハ牙アあがら口成揃へ一
謝したごひ子成抱たりて乳成合をれも清色ハ酒成温め者又異成とて鉄
七が前小さし出し子成を受た何ハあ守も酒一盞飲りてよりと重なる
小前刻より咽を鳴せし鉄七嬉しげハ呵々と笑ハ是ハ氣の毒ある御食ハ小
隔中らハ斯るまハより必ぶくと空辭ハかろ早盃を取上りなると
引受りてはれし改正あろとて清色ふさ守是より二人ハ押ハたりて
小鉄七ハ以前の酒氣を揮出しと稍醒醒し忘明の宮緒ハ我抱きと春
初髪ハ床藏小刺さちあんと纏ちやく追従言はる成も食王飲りるが佐と心
付く腰控探り風呂敷ふ巻り短刀取出し子成進せし印の品請納めを

されとて清色前置りて是ハ脚賜辱しと戲多し何心なく風呂敷より出
し刀を小朱牡丹塗の鞘あれも心牙に抜放りて燈下小さし付ち返りてあま
鍛ハ備前物とらえ金味白ハ天晴ふろ我子小添し短刀を守是ハ如何とて鉄
七ハ向ハ以短刀ハ足下の所持也但し他より求められりて同鉄七ハ早十多小醉也是
目を斜みりて赤笑ハ他ああ守明神の林の松が根も進ませり子の枕辺より
得る品も不足ハ侍りてとらふ小舌ハよりぬれり清色類ハ氣成焦燥たごが
抱き子成なれも何とせん衣の色異あるやうなり益々異なご小向ハ其兒の
着る衣ハ何時の物ハ縫り着せりて同たごも始り心付衣ハ原素親女子
成燈の影ふよりこれハ面貌りと清麗なる全く我産り子ありす大ハ疑は様
より子成取出せし紐のより何と結付り物とあき清色是を取るれを應永



二年七月廿八日誕生と記し、方々、臍の緒の包を、親の姓氏も子の名も、
ど、同姓とせし、捨子の燈迹、夫婦ハひ、惘果、忙然とて有るが、たゞの腰三、げ、
色振、ま、の、や、鉄七、主、此子ハ何国、も、拂ひ、上、れ、也、今日、夫婦、頼、
神の前、も、松根、時刻、ハ、暮、る、成、合、國、中、守、刀、の、置、ま、す、で、縁、
よ、も、忘、る、る、更、有、ま、が、然、不、是、足、る、多、く、拾、得、
夫、の、飯、と、脚、身、の、飯、凡、一、時、行、後、
一、の、酒、臭、も、
子、我、指、ひ、さ、ゆ、ぬ、負、あ、く、と、
之、て、よ、く、荒、ら、ふ、眉、根、は、く、上、責、向、
頭、を、搔、く、丈、婦、ハ、對、ひ、已、全、く、約、を、違、
二、年、七、月、廿、八、日、誕、生、と、記、し、方、々、臍、の、緒、の、包、を、親、の、姓、氏、も、子、の、名、も、
ど、同、姓、と、せ、し、捨、子、の、燈、迹、夫、婦、ハ、ひ、惘、果、忙、然、と、て、有、る、が、た、ゞ、の、腰、三、げ、
色、振、ま、の、や、鉄、七、主、此、子、ハ、何、国、も、拂、ひ、上、れ、也、今、日、夫、婦、が、頼、
神、の、前、も、松、根、時、刻、ハ、暮、る、成、合、國、中、守、刀、の、置、ま、す、で、縁、
よ、も、忘、る、る、更、有、ま、が、然、不、是、足、る、多、く、拾、得、
夫、の、飯、と、脚、身、の、飯、凡、一、時、行、後、
一、の、酒、臭、も、
子、我、指、ひ、さ、ゆ、ぬ、負、あ、く、と、
之、て、よ、く、荒、ら、ふ、眉、根、は、く、上、責、向、
頭、を、搔、く、丈、婦、ハ、對、ひ、已、全、く、約、を、違、
二、年、七、月、廿、八、日、誕、生、と、記、し、方、々、臍、の、緒、の、包、を、親、の、姓、氏、も、子、の、名、も、
ど、同、姓、と、せ、し、捨、子、の、燈、迹、夫、婦、ハ、ひ、惘、果、忙、然、と、て、有、る、が、た、ゞ、の、腰、三、げ、
色、振、ま、の、や、鉄、七、主、此、子、ハ、何、国、も、拂、ひ、上、れ、也、今、日、夫、婦、が、頼、
神、の、前、も、松、根、時、刻、ハ、暮、る、成、合、國、中、守、刀、の、置、ま、す、で、縁、
よ、も、忘、る、る、更、有、ま、が、然、不、是、足、る、多、く、拾、得、
夫、の、飯、と、脚、身、の、飯、凡、一、時、行、後、
一、の、酒、臭、も、
子、我、指、ひ、さ、ゆ、ぬ、負、あ、く、と、
之、て、よ、く、荒、ら、ふ、眉、根、は、く、上、責、向、
頭、を、搔、く、丈、婦、ハ、對、ひ、已、全、く、約、を、違、

松根の子、捨足音、我、
至、奇、見、れ、也、約、定、せ、
量、小、違、り、と、
啼、
至、
五、
三、
小、
故、
所、
松、根、の、子、捨、足、音、我、
至、奇、見、れ、也、約、定、せ、
量、小、違、り、と、
啼、
至、
五、
三、
小、
故、
所、

振捨ふるすてハ尚飯なほいひもど。如何いかも其その思屈しやくハ猶有なほ又言また成幾なり一世ひとよも
 似に一更ひとよあくるやハ一ひと厄年やくねん小こ子こ成なり儲けたくわけハ一ひと時刻じこく日ひ所ところ小捨こすて中ちゆうハ小あ
 ず。人ひとも我われも大切たいせつある子こ成なり取とりて先まづ方かたも深ふかく尋たずねて一ひとあり。翌日あすもふ
 らむ疾起はやたて。己おれが足あしの續つえ限かぎ。遠近とちんの村むら里り尋たずねのの子こ成なりり替かへ進すすみ
 せん。今夜このよハ其その子こ成なり我われ子こと思おもひ添それとねも。赤黒あか丸まる面めんを素す音ね小こあ
 且かつ緞とん且かつ練れんむる。夫婦ふうふも今更いません。其その夜よハ先まづ鉄てつ七しちを飯いへり。翌
 遅おそく清包せいほうハ森もりかび。鉄てつ七しちを責せ起おこす。兩人ふたりも車くるまを遠近とちんの村むら里り成なり尋たずね
 迎むかへ。既すで小こ七日なな小こ及およぶ。絶たく其その手てく。不ふ有あり。今いまハ清包せいほうも尋たずね
 妻つまたが。成なり練れんむる。か。宿世しゆくせより定さだまれる因縁いんえんあり。此この見みも始はじハ
 瘦やせ也なり。皆みなの向むかハ肥あ太た。愛あ良らげ。我われ子こも劣おとる。美み貌ぼうハ

く早はや愛あいむれを笑わらわらた。守まもり九くす五ご六ろく備前びぜんの助次すけつぎ。制せい作さく中ちゆう。賤せんた
 者ものの所持しよじと。品しなあず。故ゆゑ由よしあ。人ひとの添それ。肩かたあ。只ただ思おもひ。臍へらの緒いと乃なり
 書か付づ七月しちがつ廿八にじゅうはち日ひ庚申かうしん。小こ當あたり。庚申かうしん子こ成なり。長ながの後のち賊ぞく小こあ。り。の世よの縁えんを
 思おもひ捨すて。小こあ。り。是こゝも。卑ひ俗ぞくの志し鏡きやう信しん。小こ不足ふそく。只ただ脚あし身みの産う
 一ひと子こと。み。心こゝろを用もちひ。生なま。我われ子こハ。額かぶ小こ思おもひ。子こあり。且かつ我われ姓せいの二ふた玉たまと。り。あ
 隠かく。鈴すず阿あ呼あの梵ぼん定ぢやう成じやう。彫ぼろ。短たん刀たう成じやう添それ。再また度たび回かへ。逢あ時とき前まへも。あ
 悪あくも悪あくあ。子こと。言こと捨すて。養やう翁おんが。言ことの葉はも。か。除すふ。思おもひ。産うれ。ち。あ。め
 ち。つ。の。原もと来きた雄おとこ。今いま利りの。夫おとこの。舞まを。再また度たび我われ子この。あ
 八はち言こと取と替か。子こ成なり愛あい。大おほ切き小こ生なま。小こ其その年ねんの冬ふゆ不ふ意い類るい
 焼やの難なん小こ逢あ任にん押おし。五ご油あぶら村むらを。放はなす。猿さるが馬うま場ばの扁へん辺べん。移うつり。住すま居ゐる。

子賀島途中掃子條

且統つとむ茲こゝ小濱こはま名の城主ちゆうしゆ槻木つきぎ英洲えいしゆの長臣ちやうしん子賀島こがしま伊織いぢ一統いつとむ文武ぶぶ術じゆつ俱く小
學がくび究きゆうめ忠直ちゆうぢく無な二の賢士けんしありしも宿因しゆくいんの茲こゝにむる所ところ也なり男子なんし以もつ後ごるこ
三度さんど小及こおよぶも皆みな繼ついで袍ほの裡うち中ちゆう一いつ早世さうせい已な小初はつ老らう小及こおよびぬきと其その後ごハ絶
く嗣子しゆしあり夫婦ふうふ深ふかく是こゝ我われ歎なげたら當国たうこく秋葉あきば大権現たいけんげんハ靈驗れいげん著明ちやうめい小ナこハ
せむしく伊織いぢ夫婦ふうふ初はつ誓ちかひけ嗣子しゆし成な得えせむしく惘うら初はつとと更さらいと切き
仍なほく此度このたびも主君しゆきん小誓ちかひの暇ひまを賜たまはる秋葉山あきばさんへ詣まゐりて夜よ參さん籠かごてて子こ成な得えんと
成な行ゆてて板下いたか向むかひ及およびぬ途ちゆう中ちゆうの茶店ちやてん小取とりて志こころきる物ものありし召めい具ぐ甘あま僕わがをを
取とりて引ひ返かへさせ其身そのみ入い通とほひ押おしる道みちありしが夕月ゆふつきの入い果はぬ程ほど中ちゆう提燈ていとう小火こゝろを
點ひきるもの乃すなはち常小宿じゆくきる旅りよ宿しゆくを志こころして道みちを急いそぐ所ところ五油ごあぶら村むらの

松林しょうりんの下した小赤こせき子の啼なきを伊織いぢ心こゝろ怪あやしく立寄たてよりし松まつが根ね小こ子こ捨す置まりし
なり。扱あつつ我われ亦また夫婦ふうふハ迎むかへし宿しゆくを分わりて子こ種たねありしが秋葉あきば推現おしげん此見このみ我われ小授こじゆ
ふふふふと獨ひとりら抱いだえし懐なつ小入こいりし傾かたみし啼な止と寐ねるを伊織いぢ弥や愛あ
憐あはれを増まえし足ありし障さりし物もの有ありし取とりて透すへし白しろ鞘さやの短たん刀とうと覺おぼしし扱あ
乞食こじき人ひとの子こや、ゆたか田いの人の胤う多おほく更さら明ありしと限かぎなく悦よろこびし腰こし小こささて
足ありし早はや小こ宿しゆくの旅りよ宿しゆくへ行ゆきし伊織いぢハ宿しゆく小こ署しよて先ま
拾ひろひし見みを改あらむを小このこ死し男おとこ好この介けを益えき怡い悦えつし。僕わがも其その節ふしの更さらを言いひし
せ扱あつつ箱はこの家いへ刀や自みづかを招また。我われ絹ぬい有ありし明ありし貴たか得えるを近隣きんりん小乳こちちの右みぎ女め有ありし乳ちち
を乞こへし飲のみし乳ちち母はは奉ほう公こうと望のぞむ者ものありし人ひと品しんを見み定さだめし上うへ此こゝ宵よ直ち小抱こだへ
取とりて入いりし女め有ありしと伺うかがひし家いへ刀や自みづかをさすをとて不ふ側そである更さらも侍さむらいたりし

去年少く吾侪が許小召使一婢女を入るとる商客とくくひ逢遂に不離離侍
まを親許へ歸せ侍ひし彼密使の主とて身あれた如何とせん
あまのやまの象なき走り何地行入行方をさし不知あり侍りね婢女は是の
力を落し情あれ人を頼めて以悔と歎た親許小在る心若し死月日
送ると去り月子の産後侍りくも其夕産ま子空しくあり母は
くく乳のいといを溢を苦した更小思ひ乳人奉公甘るわくと望とさむくと
今小有付方おなくて今日も延行へ其親も者と連立く延寄れくも
其妻の頼りおえ侍り今宵此宿の何某が許小宿をさむくすくや死
卑た女小侍ましく面貌もさめハ醜かきまといふもさめくくわ者小侍
し彼を呼寄く進めいんと信とらり伊織大不悦は是ハ寃寃の

有り程近く疾く招寄り人品の模様小く直小此見の乳母小抱へ飯
らもと忙かきまど家刀自りお悦びさるるハ彼者親子かきりた身の再
ひ小侍として頼り使をかりく小其使と歩連り親子も来り家刀
自り後迎小付心ゆく伊織も宿する座敷の次の間小蹲りね伊織彼女を
近く抱た子を託り乳を會させ所ハ何国名ハ如何と問ふハ牛津の農民
吾侪名ハ茅らら侍りいねはまのふと夕ね其容儀動止がは譯の卑
た奉公せし小似司が物静ゆく面貌も鄙びしを伊織甚と意小くあひ
即時小親ある者と何是の更取究め直小抱り我居間小とめ捨ひし兒の
乳人くさちふとる是由急く其親も宿の刀自り深く悦ひ思及謝りて退
た伊織主従ハ間所小入り又其の疲勞を休めり斯く其夜も明行りて伊織

寵愛一十三才の年召出して小扈從ここしやうの子息播磨助中はりまのすけちゆうと附置つけ置きせらる。
 是亦依よる香之助が乳母ちちのぼ才八暇さいはちあひまを乞親待おやをねまちへ飯いひ人更ひとさら其望そのぞとれむ伊織夫婦い織夫婦も
 多年とほし来り勤仕きんしし香之助が守まもりて功を賞あづかり敷しくの引出物ひきだすものをあて
 暇あひまをせ僕わがを付つく右卿半みぎのうぢはん遣やり飯いひらり其後そのち某ある主家勤仕しゆけきんしの中ちゆう小賚せうざい
 溜たまりる金錢きんげんをもと親おや子こ口小くちゆう綱つなをと此程このほどの田畑のうらを買かひ心こころのこ小世せう送送りたり
 幾程いくほどたつ親おやある者死ししれむ女の獨居ひとりぐいも如何いかに聲こゑたりて生涯しやうがいのを安やすく袖そで
 人々の勸すすむ順したがひ身みハ三十の上みそひのうへ二三にさん起こるは村むらの暮くを聲こゑ中ちゆうり世よ成なりせ
 たる小思こしの外ほか不身持ふみもちある男おとこゆく皆みなの間まの家財田畑のけざいも小拈却こねりや皆みな賸録あふりきす
 肩景かたげい八逐電はちしゆでんして行方不知ゆくまじたりぬ某ある八惆景はちちゆうげい若わかれ時ときといひ今いま亦またかゝる無頼むらい人ひと小身せうみを佳よ
 一八いちはち勝かちる薄命うすぢゆうある身みの上うへや歎息なげき其後そのち八媚暮はちめいぼ一いち少すく八紅べに煙えん成なりと云いふ小こなる

繪本金石譚前編卷之壹畢

